

国

語

(
解答
番号

1

}

57

(

「わかる」というのは、物事の意味を理解することだと言ってよいであろう。ただ暗記するのではなく、その意味を理解することが重要である。暗記も重要だが、それは意味の理解への第一歩として重要なのである。

たとえば、質量がエネルギーとトウカ¹であることを暗記しても、それが何を意味するのかを理解しなければ、ほとんど何の役にも立たない。「質量はエネルギーとトウカか」と問われて、正しく「イエス」と解答できるくらいが「あ」で、原爆がなぜ膨大なエネルギーを生みだせるのかといった問いに答えることはできない。また、困っている人は助けるべきだということをただ暗記しているだけで、その意味を理解していなければ、自力で困難を乗り越えようとしている人まで助けてしまい、「い」だということになりかねない。

《ア》、意味を理解することが重要だとして、その意味とは何だろうか。意味をもつものとしては、まずは言葉(あるいは一般に表現)が思い浮かぶだろうから、言葉の意味とは何かということから考えてみよう。

言葉が意味をもつというのはふつう、言葉がある特定の物事を表すことだと考えられよう。「イヌ」という言葉はイヌを表し、「地震」という言葉は地震を表す。これらの言葉がそのようなものを表すことが、それらが意味をもつということだ。かりにこの考えが正しいとして、それでは「イヌ」がイヌを表し、「地震」が地震を表すというのは、どのようなことをさらに問うてみよう。

この問いにたいして、「イヌ」という言葉は私たちの心のなかでイヌのイメージと結びついており、このイメージを介してイヌを表すという説がある。これは意味の「イメージ説」とよばれる。イヌのイメージはイヌとよく似ているから、イヌを表す。したがって、「イヌ」はそれと結びついたイヌのイメージを介してイヌを表すことになるというわけだ。

《イ》、もしそうだとすれば、結びつく特定のイメージがない言葉の場合は、どうなるのだろうか。「民主主義」と結びつく特定のイメージはないだろう。それゆえ、「民主主義」はイメージを介して民主主義を表すわけにはいかない。また、「理性」とい

う言葉と結びつく特定のイメージもないから、「理性」もイメージを介して理性を表すわけにはいかない。

意味のイメージ説に代えて、ウイトゲンシュタインという二〇世紀を代表する哲学者が意味の「使用説」を唱えた。言葉は私たちの日々の営みのなかでさまざまに使用される。言葉を用いて行われるこのような営みをウイトゲンシュタインは「言語ゲーム」とよぶ。それぞれの言葉は言語ゲームのなかでその言葉に特有の仕方^aで用いられる。「イヌ」は、たとえば、イヌが眼のまえにいるときに「イヌだ」と発話され、「可愛いね」という聞き手の言葉^bを引起こす。これは「トラ」の使われ方とは大きく異なる。「イヌ」がイヌを意味するのは、「イヌ」がそのような仕方^cで使用されるということであり、「トラ」がトラを意味するのも、「イヌ」とは別のある特定の仕方^dで使用されるということである。

言葉の意味とはその使用だということは、言い換えれば、言葉の意味とはその「働き」だと言えよう。イヌが眼前にいるときに「イヌだ」と発話し、イヌに近寄る動作を引き起こすといったことは、「イヌ」という言葉が言語ゲームにおいてそのような働きをもつことにほかならない。

また、言葉だけではなく、物事も意味をもちうる(ここでは「物事」という言葉を物と出来事の ^c を含む広い意味で用いる)。物事の意味についても、言葉の意味と同じ考え方が ^d できる。つまり、物事の意味もその物事に特有の働きとして捉えることができる。

言葉にせよ、物事にせよ、それらの意味とはそれらの働きにほかならない。それらが何を表すかということも、それらがどんな働きをするかということから決まる。「イヌ」がイヌを表すのは、それが言語ゲームにおいてある特定の働き(とくにイヌがいるときに、「イヌ」と発話されるという働き)をするからである。将棋や囲碁などのゲームでの一手が勝利の ^e を表すのも、それがゲームにおける特別な働き(まさに勝利を ^e させる働き)をするからである。

意味が働きだとすれば、意味を理解することは働きを理解することである。言葉にせよ、物事にせよ、ただそれを ^f するだけではなく、その意味を理解することが重要だというのは、ようするにそれがどんな働きをするのか理解することが重要だということなのである。

意味とは何かが見えてきたので、つぎに「理解」についても考えを深めてみよう。意味の理解には、浅い理解もあれば、深い理解もある。たとえば、太郎は「恥ずかしい」という言葉の意味をごく浅くしか理解していないが、文学好きの花子は深く理解している。しかし、歴史好きの太郎は壬申じんしんの乱の意味を深く理解しているが、花子は「う」の浅い理解しかもっていない。また、太郎はピタゴラスの定理の意味をごく表面的にしか理解しておらず、その証明もできないが、花子はそれを深く理解していて、証明もできる。

それでは、^A理解の深淺とは何であろうか。さきに述べたように、意味が働きだとすれば、理解の浅さと深さの違いは、言葉や物事の働きをどれくらい詳しく理解しているかの違いとして説明できよう。

言葉はいろいろな文脈で用いられる。「恥ずかしい」という言葉は、教室で先生にあってうまく答えられなかったときに「ああ、恥ずかしい」と言って、みなの方を誘うという仕方でも用いられるだけでなく、優秀な子と比べられて「恥ずかしくない」と言われて、「フン」ともくれるという仕方でも用いられる。「恥ずかしい」という言葉が用いられる文脈はさまざまであり、どの文脈でもつねに同じ働きをするわけではない。むしろ、用いられる場面や引き起こす反応が異なるので、文脈に応じて異なる働きを言ったほうが正確であろう。したがって「恥ずかしい」という言葉の理解には、少数の文脈での働きしか知らない場合と、多数の文脈での働きを知っている場合の違いがあることになる。言葉の意味の理解の浅さと深さの違いは、どれくらい多くの文脈でその言葉の働きを知っているかの違いとして説明できよう。

同じように、物事の意味の理解についても、その浅さと深さの違いは物事の働きをどれくらい詳細に知っているかの違いとして説明できよう。

たとえば、壬申の乱は天智天皇の死後、六七二年に天皇の子の大友皇子おわたものみこと天皇の弟の大海人皇子おおあまのみこが皇位継承をめぐって争った内乱である。皇族と豪族がそれぞれ二派に分かれて争った。しかし、このようなことは、この出来事の意味・働きというよりも、出来事自体の具体的な内容である。出来事の意味・働きは、それがどのような経緯で起こり、どんな結果をもたらしたかに関わる。それは言葉の意味・働きがその言葉がどのような状況で使用され、どのような結果(反応)をもたらしたかに関わるのと

同様である。

壬申の乱の例で言えば、天智天皇の後継者が弟の大海人皇子だと定められていたにもかかわらず、天智天皇が子の大友皇子を自分の後継者にしたいと望むようになったために生じた。そしてこの乱の結果、勝利した大海人皇子は即位して天武天皇となり、そのイリ²ヨクは絶大で、豪族を抑えて天皇を中心とする国づくりが進んだ。このような経緯と結果が壬申の乱の意味・働きである。もちろん、この経緯と結果はいま述べたよりもはるかに多面的で詳細な内容をもつ。したがって、壬申の乱の意味・働きも非常に多面的で詳細な内容をもつ。その内容をどれくらい多く知っているかが、理解の深淺を決めるのだ。

ただし、出来事の場合、それ自体の具体的な内容を詳しく知ることが多い。壬申の乱が大友皇子と大海人皇子のあいだの皇族と豪族を巻きこんだ皇位継承の争いであることを知るだけでなく、たとえば、大海人皇子が先に急所の地を押さえ、大友皇子が立ち遅れたことをさらに知ることが、この乱の意味をより深く理解することにつながるように感じられるだろう。というのも、それを知ること、なぜ大海人皇子が勝利して天皇に即位するという結果になったかがより深く理解できるようになるからである。

しかし、たんに出来事自体の内容を詳しく知るだけで、その経緯と結果をまったく知らなければ、やはりその出来事の意味を理解したとは言えない。出来事自体の内容はその出来事がどんな経緯で起こり、どんな結果をもたらしたかということと切り離せない深いつながりがあるが、このつながりを理解してこそ、出来事の意味を理解したと言える。したがって、出来事の意味を深く理解するためには、あくまでもその出来事の経緯と結果を詳しく理解しなければならないのである。

ここまで、言葉の意味の理解とともに、物事の意味の理解を見てきた。物事の意味の理解は、その物事の経緯と結果についての理解であり、その物事自体の内容の理解を含まない。しかし、「物事の意味の理解」ではなく、たんに「物事の理解」と言うときは、意味の理解と内容の理解の両方を含む。そしてこの意味の理解と内容の理解は、いずれもその物事についての「知識」を獲得することだと言ってよいだろう。物事の意味と内容の理解とは、ようするにその物事についていろいろな知識を獲得することにほかならない。

ところで、知識には、大きく分けて、「命題知」と「技能知」という、ふたつの形態がある。命題知は物事を命題で表して、その命題が正しいことを知るといふ形の知識である。梅が咲いていることを知るといふのは、梅が咲いているという事態を「梅が咲いている」という命題で表して、それが正しいということを知ることである。水が零度で凍ることを知るといふことも、その事態を命題で表して、その正しさを知ることである。命題は言語で表現されるので、命題知は言語的な知識と言ってよい。私たちはみな、膨大な数の命題知をもっている。

これにたいして、技能知は物事のやり方を知っていることを指す。たとえば、自転車の乗り方を知っていることは、ひとつの技能知である。これは、ようするに能力にほかならない。自転車の乗り方を知っているといふのは、自転車の乗れるということ、つまり自転車に乗る能力をもっているということである。走れることや泳げることも、技能知である。私たちはみな、命題知と同じく、膨大な数の技能知をもっている。

「覚える」と「わかる」との関係で言うと、命題知はおもに「わかる」ことに関係し、技能知は「覚える」ことに関係する。自転車の乗り方を知ることが、自転車の乗り方を覚えることである。それは練習によって習得される。自転車の乗り方を解説した本をいくら読んでも、自転車に乗れるようにはならない。じつさいに自転車に乗って、何度も転びながら、練習しなければならない。それは身体で覚えなければならないのである。

それについて、命題知は言葉だけで獲得することができる。練習を必要とせず、ただ言葉だけで獲得できる命題知は、とても便利だ。自転車の乗り方を解説した本を読んでも、自転車が乗れるようにはならないが、自転車の乗り方についての命題知を得ることはできる。野球の打撃のコーチは、かつての名選手でなくても、打撃にかんする命題知を豊富にもっていれば、打撃の指導をうまく行うことができる。

^B 物事の具体的な内容にかんする命題知を獲得しても、もちろんそれだけでは、物事の意味を理解したことにはならない。物事の意味を理解することは、その物事が他のどんな物事を引き起こすかを知ることである。それはようするに、物事と物事のあいだの関係をj知ることである。言語は文によって物事を表現し、物事と物事のあいだの関係を文と文のあい

だの接続関係として表現することができる。文と文のあいだに接続関係をもたせることが、それぞれの文によって表現される物事と物事のあいだの関係を表すことなのである。

言語は多くの文を接続して、大きな文の体系を g することができる。この文の体系は多くの物事が織りなす全体的な関係を表す。物事の意味を理解することは、その物事が他の物事と織りなす全体的な関係を知ることである。したがって、ある物事についての文の体系(つまり体系的な説明)を読んで、その物事に関する命題知の体系を獲得すれば、その物事の意味を体系的に理解することができるのである。

ささほど述べたように、命題知は人から話を聞いたり、本を読んだりすることで獲得できる。獲得のために、練習や訓練は不要だ。しかし、命題知が言葉だけで獲得できるのは、私たちがすでに言葉の意味を知っているからである。

たとえば、「図書館は閉まっているよ」と聞いて、図書館が閉まっているという命題知を得ることができるのは、「図書館が閉まっている」という文の意味をあらかじめ知っているからである。知らない言語で話されたことを耳にしても、命題知は得られない。英語がわからない人は、「The library is closed」と言われても、図書館が閉まっているという命題知を得ることはできない。

では、言葉の意味はどのようにして習得されるのだろうか。さきに述べたように、言葉の意味は言語ゲームにおける使用である。私たちは幼いころから、さまざまな言語ゲームに h して、言葉の使用を学んでいく。大人がどう使っているのかを i し、それをまねて自分でも使用し、間違っていたら j を受け、やがて適切に言葉を使えるようになる。それはじつさいに言語ゲームに h しながら実践的な練習を行い、それによって言葉を適切に使用する能力を獲得することにはかならない。言葉の意味の習得は、言葉の使用能力の獲得なのである。

したがって、言葉の意味を知ることが、言葉の使用能力という技能知をもつことにかならない。命題知はこの技能知によって支えられている。命題知は練習なしに獲得できてまことに k だが、その l には膨大な練習によってはじめて獲得できる技能知が働いているのである。

ただし、言葉の意味は、練習ではなく、言葉によって習得されることもある。「民主主義」という言葉の意味は、「人民が権力を有し、みずからそれを行使する政治形態」という言葉での説明によって理解できる。辞書は言葉による説明の宝庫である。辞書を引くことで、私たちは膨大な数の言葉の意味を知ることができる。しかし、このようにして言葉の意味を知るためには、説明に用いられる言葉の意味をあらかじめ知っていなければならぬ。英単語の意味を正確に知るには、英和辞典よりも英英辞典を引いたほうがよいと言われることがある。なるほどと思つて英英辞典を引いてみると、説明に用いられる英単語の意味がわからないので、結局、英和辞典を引くはめになる。

《ウ》、説明に用いられる言葉の意味を知らなければ、その言葉をさらに辞書で引けばよい。「民主主義」は「人民が権力を有し、みずからそれを行使する政治形態」だと説明されても、「権力」や「政治形態」の意味がわからなければ、「民主主義」の意味を知ることができない。しかし、「権力」や「政治形態」をさらに辞書で引くことができる。このように辞書をつぎつぎと引いていけば、やがて「民主主義」の意味がわかるようになるかもしれない。しかし、そのためには、やはり最後に、説明ぬきに知っている言葉がなければならぬ。つまり、言語ゲームにおける言葉の使用の実践的練習によって、基礎的な言葉の意味をすでに習得していなければならないのである。【 I 】。

しかも、厳密に言えば、ほとんどの場合、言葉による言葉の意味の習得では不十分である。「民主主義」の意味を「人民が権力を有し、みずからそれを行使する政治形態」という説明によつて知つたとしても、それで十分「民主主義」の意味を理解したことにはならない。意味の理解には、浅い理解や深い理解があり、言葉による説明だけでは、十分深い理解には達しない。たとえ辞書的な説明に加えて、民主主義にかんする書物を何冊も読んでも、やはり十分に理解したとは言えない。「民主主義」という言葉にはさまざまな使用があり、その使用を十分理解するには、辞書や書物だけでは、不十分なのである。

「民主主義」という言葉の十分な理解を得るためには、やはりじつさいに「民主主義」という言葉を用いて行われる言語ゲームに参加して、実践的にその言葉の使用を学ぶ必要がある。そのためには、じつさいに民主主義の国で生活してみることも必要かもしれない。とにかく「民主主義」という言葉を用いてやりとりする日常の会話に参加して、その使用を実践的に習得しなければな

らない。そうしてはじめて十分に深い理解が得られる。この点からも、【 Ⅱ 】。

ここまで「言語」と言ってきたものは「自然言語」、すなわち私たちが日常の会話でやりとりしている言語である。この自然言語のほかにも、さまざまな表現方法がある。表、グラフ、数式、図、絵、人工言語など、じつにタサイだ³。これらはそれぞれ独自の仕方での物事の理解を助けてくれる。以下では、まず、物事を視覚的に示す表現(絵、グラフ、図など)について、それが私たちの理解をどのように助けてくれるかを見ていこう。

小説にはふつう挿絵がない。ただただ文字が並ぶ。それでも、小説を読む人は頭のなかで描かれた情景を思い浮かべながら読む。情景のイメージが浮かんでこない、ひどく理解しづらいし、楽しく読めない。頭のなかのイメージは小説の理解をおおいに助けてくれる。しかし、人生経験がまだ少ない子供たちは、物語を読んでイメージを思い浮かべるのがむずかしい。そのような子供たちのために絵本がある。文章に添えられた絵がイメージの代わりをしてくれる。中高生にもなると、さすがにもう絵本はあまり必要ないであろうが、それでも挿絵がいくらかある小説は、おおいに理解の助けになる。大人用にも、挿絵のある小説がもっとあってもよい。このように、絵は物事を視覚的に理解するのを助けてくれる。

自然科学系の論文では、図、表、画像などがよく出てくる。人文科学系や社会科学系の論文では、文字だけという場合も多いが、自然科学系では、文字だけの論文はほほえないであろう。

たとえば、脳科学では、ある課題(何かある恐ろしいものを見るといった課題)を行ったときに、脳のどの部位が活性化するかという実験がよく行われる。そしてその結果が論文として公表されるとき、必ずといってよいほど、活性化した脳部位を赤や黄で示した脳画像⁴がテイジされる。たとえば、ある恐ろしいものを見たときに扁桃体が活性化したとすると、そのことが文章で表現されるだけでなく、扁桃体を赤く塗った脳画像でも表される。このような脳画像の説得力は大きい。

私たちは自然言語で物事を理解する能力に長けているのと同じように、視覚的な表現で理解する能力にも非常に長けている。そのため、図、表、グラフ、画像など、物事を可視化するさまざまな表現手段が生み出されている。しかし、自然言語での理解

の重要性は、けっしておろそかにできない。

《エ》、視覚的な表現が何を描き、どの側面を強調しているかが、必ずしも明らかでない場合もあるからだ。せつかく写真やイラストがあっても、どうもピンと来ず、ただ「え」と眺めるだけということがある。そのような場合には、写真やイラストに付されたキャプション(カンケツな解説文)⁵がおおいに役立つ。キャプションを読んではじめて、写真やイラストをどう見ればよいかがわかる。キャプションは写真やイラストの見方を教えてくれるのである。

そのため、自然言語による理解と視覚的な表現による理解は、ともに重要であることがわかる。両者があいまって、物事の深い理解につながる。では、両者は物事の理解にたいしてそれぞれどんな貢献をしているのだろうか。視覚的な表現は物事を可視化することで物事の理解に貢献する。たとえば、各国の人口をたんに数字で表すのではなく、棒グラフで表すと、人口の多さの違いがひと目でよくわかる。では、自然言語のほうは物事の理解にどう貢献するのだろうか。

まず、第一に、言葉は物事を分節化することで、理解を助ける。一枚の写真を見ても、そこに写っているものがどのような対象で、どんな性質をもっているかが必ずしもはっきりしないときがある。このようなときに言葉で説明が与えられると、何が写っているかがはっきりする。たとえば、「地震で家が倒壊した」と説明されると、写真に写っている光景が〈地震〉、〈家〉、〈倒壊〉にはっきりと切り分けられ、それらのあいだの関係(〈地震〉によつて〈家〉が〈倒壊〉を起こしたという関係)が明らかになる。

《オ》、このような「事実のあり方」の分節化に加えて、「価値のあり方」の分節化も起こる。地震で家が倒壊したことがわかると、そこに漂う〈無残さ〉や〈荒涼さ〉といった価値のあり方がくっきり浮かび上がってくる。【 Ⅲ Ⅲ Ⅲ】。

第二に、さきに見たように、言葉は物事を体系化することで、理解を助ける。一枚の写真には、いろいろなものが複雑に関係しあっている様子が写されていることがある。このようなときは、それらが全体としてどのような体系をなしているのかが必ずしも明らかではない。写真はたしかに全体を一望させてくれるが、一望できても、全体の体系的なあり方がわかるとはかぎらない。そのような写真に言葉で体系的な説明が加えられると、物事の体系が明らかになる。たとえば、「町の中心に市役所がある。その東側に繁華街がある。住宅街は北と西に開けている。……」といった説明が加えられると、写真に写った町がどんな

体系をなしているのかがわかる。

言葉はこのように視覚的な表現が示すイメージを分節化し、体系化することによって、物事の理解に貢献するのである。

以上をまとめると、視覚的な表現(絵、図、グラフ、など)は、自然言語によるホカン⁶を受けながら、物事を視覚的に表すことで私たちの理解を促す。それは可視化という独自の仕方でも物事の理解に大きく貢献するのである。

(信原幸弘『覚える』と『わかる』 知の仕組みとその可能性』より)

(注1) 扁桃体……脳の側面にある、アーモンド形の神経細胞の集団。記憶や感情を処理する。

問1 | 線1〜6に当たる漢字を含むものとして最も適当なものを、次の各群の①〜⑥のうちから、それぞれ一つずつ

- | | | | | | |
|---|------|---|----|---|---|
| 1 | トウカ | ① | 寸暇 | ① | 1 |
| 2 | イリヨク | ② | 単位 | ② | 2 |
| 3 | タサイ | ③ | 栽培 | ③ | 3 |
| 4 | テイジ | ④ | 裁培 | ④ | 4 |
| 5 | カンケツ | ⑤ | 訂正 | ⑤ | 5 |
| 6 | ホカン | ⑥ | 寛大 | ⑥ | 6 |
| | | ① | 補習 | ① | 1 |
| | | ② | 保全 | ② | 2 |
| | | ③ | 捕手 | ③ | 3 |
| | | ④ | 穂先 | ④ | 4 |
| | | ⑤ | 歩数 | ⑤ | 5 |
| | | ⑥ | 舗装 | ⑥ | 6 |
| | | ② | 専科 | ② | 2 |
| | | ③ | 脅威 | ③ | 3 |
| | | ④ | 偉大 | ④ | 4 |
| | | ⑤ | 集荷 | ⑤ | 5 |
| | | ⑥ | 通過 | ⑥ | 6 |
| | | ② | 情意 | ② | 2 |
| | | ③ | 祭礼 | ③ | 3 |
| | | ④ | 委細 | ④ | 4 |
| | | ⑤ | 異議 | ⑤ | 5 |
| | | ⑥ | 衣料 | ⑥ | 6 |
| | | ② | 彩色 | ② | 2 |
| | | ③ | 贈呈 | ③ | 3 |
| | | ④ | 高底 | ④ | 4 |
| | | ⑤ | 幹事 | ⑤ | 5 |
| | | ⑥ | 根底 | ⑥ | 6 |
| | | ② | 間隔 | ② | 2 |
| | | ③ | 関係 | ③ | 3 |
| | | ④ | 完了 | ④ | 4 |
| | | ⑤ | 簡易 | ⑤ | 5 |

問2 「」あゝえに入るものとして最も適当なものを、次の各群の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

い。解答番号は、あ 7 い 8 う 9 え 10 。

あ ① 後の祭り ② 事の起こり ③ 世の習い ④ 関の山 ⑤ 年の瀬 ⑥ 人の道

い ① お転婆 ② お節介 ③ お愛想 ④ お任せ ⑤ お開き ⑥ お通し

う ① 通り一遍 ② 灯台下暗し ③ 世間知らず ④ お山の大将 ⑤ 青二才 ⑥ 赤の他人

え ① 敢然 ② 騒然 ③ 悠然 ④ 当然 ⑤ 偶然 ⑥ 漫然

問3 《》ア～オに入るものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。な

お、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合には、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、ア 11 イ 12 ウ 13 エ 14 オ 15 。

① なぜなら ② もちろん ③ では ④ あるいは ⑤ しかし ⑥ さらに

問4 a～fに入るものとして最も適当なものを、次の①～⑩のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。な

お、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合には、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、a 16 b 17 c 18 d 19 e 20 f 21 。

① 暗記 ② 確定 ③ 適用 ④ 除外 ⑤ 両方

⑥ 一方 ⑦ 静止 ⑧ 行動 ⑨ 収束 ⑩ 誘発

問5

g ～ l に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑩のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。なお、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合には、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、 g 22 h 23 i 24 j 25 k 26 l 27。

- ① 分析
- ② 観察
- ③ 便利
- ④ 不便
- ⑤ 参加
- ⑥ 辞退
- ⑦ 才能
- ⑧ 背後
- ⑨ 修正
- ⑩ 構成

問6

【 I ～ III に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。な

お、同じ番号を二回以上用いてはならない。もし用いた場合には、同じ番号の解答をすべて誤答とする。

解答番号は、 I 28 II 29 III 30。

- ① 言葉による説明はこのように事実や価値の分節化を行うことで、物事の理解に貢献するのである
- ② 練習によって獲得される技能知が、言葉による言葉の意味の習得の基盤をなしているのだ
- ③ 命題知は知識によって獲得され、そのことが言葉の意味の習得につながるのである
- ④ 言葉の意味の習得には、言語ゲームにおける実践的な練習が重要なのである
- ⑤ 日常の会話のやり取りは自然言語の習得につながり、言語ゲームの実践でも不可欠なのだ

問7 〰線A「理解の深淺」についての言葉の意味の理解と物事の意味の理解のそれぞれの説明の例として、イ〜への最も

適当な組み合わせを、次の①〜⑨のうちから、一つ選びなさい。解答番号は、31。

イ 「恥ずかしい」という言葉が使用されることで人々がどのような反応をするのかを知ることである。

ロ 「恥ずかしい」という言葉の意味が文脈に応じてどのように理解されているのかを知ることである。

ハ 「恥ずかしい」という言葉の使い方が使用する人々によってどのように違うのかを知ることである。

ニ 壬申の乱の皇位継承や皇族と豪族の対立についてどれくらい理解して知っているかということである。

ホ 壬申の乱の登場人物や起こった事件の重要さをどれくらい理解して知っているかということである。

ヘ 壬申の乱の始まりからの具体的な経緯や結果をどれくらい理解して知っているかということである。

① イとニ ② ロとホ ③ ハとヘ ④ イとホ ⑤ ロとハ

⑥ ハとニ ⑦ イとヘ ⑧ ロとニ ⑨ ハとホ

問8 〰線Bの説明として最も適当なものを、次の①〜⑥のうちから、一つ選びなさい。解答番号は、32。

① 物事の意味を理解するためには、言葉で獲得する命題知と練習で獲得する技能知を並行して身につける必要がある。

② 物事の意味を理解するためには、言葉で獲得する命題知を知ってから練習で獲得する技能知を身につける必要がある。

③ 物事の意味を理解するためには、練習で獲得する技能知を身につけてから言葉で獲得する命題知を知る必要がある。

④ 物事の意味を理解するためには、その中で引き起こされる複数の物事それぞれの全体的な体系を知る必要がある。

⑤ 物事の意味を理解するためには、ある物事がどんな物事から引き起こされているのかを順序だてて知る必要がある。

⑥ 物事の意味を理解するためには、そこでの物事と物事との相互の関係を接続関係として表現して知る必要がある。

問9 〰〰〰線Cの説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから、一つ選びなさい。解答番号は、

- ① 言葉の意味を学ぶには、言語ゲームにおける言葉の実践的な使用を続ける方法もあるということ
- ② 言葉の意味を学ぶには、言語ゲームにおける技能知のレベルを向上させる方法もあるということ
- ③ 言葉の意味を学ぶには、特定の言葉の意味をそれに関連する書物で学んでいく方法もあるということ
- ④ 言葉の意味を学ぶには、特定の言葉の意味をいくつもの辞書で引き続きしていく方法もあるということ
- ⑤ 言葉の意味を学ぶには、言葉のやり取りを通してその実際の意味を順序だてて知る方法もあるということ
- ⑥ 言葉の意味を学ぶには、言葉のやり取りを通して日常会話の中でその意味を知る方法もあるということ

33

問10 本文の内容と合致しないものを、次の①～⑩のうちから、二つ選びなさい。解答番号は、

34

35

- ① 脳科学では脳のどの部位が活性化するかという実験がよく行われる。
- ② 出来事の意味を深く理解するためには、その出来事の経緯と結果を知る必要がある。
- ③ 「イヌ」という言葉はイヌを表し、「地震」という言葉は地震を表す。
- ④ ウイトゲンシュタインという二〇世紀を代表する哲学者が意味の「使用説」を唱えた。
- ⑤ 言葉は視覚的な表現が示すイメージを分節化、体系化することで物事の理解に貢献する。
- ⑥ 技能知は物事のやり方を正しく知ることによって物事の理解を進める知識である。
- ⑦ 自然科学系の論文では図やグラフが豊富で文字だけの論文はほとんどない。
- ⑧ 中高生にも大人にも挿絵のある小説は理解の助けになるのもっとあってもよい。
- ⑨ 論文中の写真を見ることで物事の体系的な理解をより深めることが可能となる。
- ⑩ 各国の人口を数字でなく棒グラフで表すと人口の多さの違いがひと目でよくわかる。

II 次の文章を読んで、あとの問い(問1～8)に答えなさい。解答番号は、

36

57

。《配点35》

(注1) 九条院の雑仕・常葉(注2)が腹に、子供三人あり。幼けれども、皆男子(注3)なれば、「さてはあらしものを」など、世の人申しあへり。

常葉、この事を聞きて、「我、左馬頭(注4)におくれて、嘆くだにもあるに、この子供を失ひては、片時も耐いへてやはあるべき。いとけなき者ども引き具して、適かなはぬaまでも、身を隠さむ」と思ひければ、老いたる母にも知らせずして、召し仕ふ者にも、頼いみがたきは人の心なれば、知らせず、夜に紛れて迷ひ出づ。兄は今若いまわかとて八つになる。中は乙若おとわかとて六つ、末は牛若うしわかとて二歳になり、大人しきを先に立てて歩ませ、牛若をば胸に抱きて宿所を出でぬ。

(中略。清水観音に参り、行く末の無事を祈った。)

たそかれ時も過ぎぬbれば、行きかふ人も後絶えて、明日を待つべき命とも思おもえず。「あはれ、人をも見知らざらむ山里人の草いほりの庵いほりもがな。今夜ばかり身を隠して、子供を助けむ」と思ひゐたところに、炊く火のかげの見えけるを頼みて近付き寄り、竹の網戸を叩きけるに、あるじと思しくて、大人しき女、戸を開けてぞ出でたりcける。常葉を見て、世に怪しげウにうちまもり、「いかにや、かエひがひしき人をも召し具せず、幼き人々を具しまゐらせて、この雪の中に、いづくへわたらせおはしますぞ」と申せば、常葉、「さればこそ、夫の憂き心の色を見せしかば、恨めしさのあまりに、子供引き具して出でたれども、雪さへ降りて、道を踏なみ違dへてよ」とて、しほしほとしたる気色ろにて、心ばかりは紛Bらかさむと、思Bひ思はぬ由をすれども、涙は袖に余りにけり。

あるじ、「さればこそとあやしがりつるが、いかにも唯ただ人にてはおはしませじ。かかる乱れの世なれば、しかるべき人の北の方にてぞおはすらめ。行方も知らぬ人故に、老い衰へたる下臈(注5)が、六波羅へ召し出だされて、繩をも付き、恥をも見て、命を失ふほどの目に遭ふとでも、追ひ出いだし奉るべきかは。この里のならひ、誰たれか請うけとりまゐらせeざらむ。野山にこそおははしまさむずらめ。これほど寒く耐へがたきに、明日までもいCかでかながらへさせたまふべき。家こそ多けれ、門こそあまたあれ、思し召

「し寄る御事も、この世ならぬ御契にてぞさぶらふらむ。見苦しけれども、入らせたまへ」とて、呼び入れ奉る。新しき筵(注7)取り出だし、敷かせ奉る。焚たき火して当て、饗きやうすすめけり。常葉、あまりの嬉うれしさともなく、胸塞ふたがりて、少しも見ず。子供をば、とかくすかして食はせけり。常葉が有り様を見て、あるじ、心苦しく思ひ、色々にいたはりけり。「偏ひとへに清水の観音の御憐あはれみなり」と、行く末たのもしくぞ思ひける。

(『平治物語』より)

(注1) 九条院の雑仕……九条院は、近衛天皇の中宮・藤原呈子ていしのこと。雑仕は召使い。

(注2) 常葉……平治の乱で敗れた源義朝よしむねの妻の一人。

(注3) 皆男子なれば、「さてはあらしものを」など、世の人申しあへり……男の子ばかりなので、「このままではすまされまい」と世間の人はいわさしあった。

(注4) 左馬頭……源義朝のこと。

(注5) 下臈……身分の低い者。ここでは、自分のことをへりくだっていう。

(注6) 六波羅へ召し出だされて……六波羅は京都市東山区の、鴨川東岸の一角を指す。平安時代以来の歴史上の要地。平家の館があったことから、ここでは平家の元へ連行されることをいう。

(注7) 筵……わらなどで編んだ敷物のこと。

問1 — 線ア～エの意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、ア **36** イ **37** ウ **38** エ **39**。

ア「おくれて」 ① けんか別れして ② 死に別れて ③ 遠慮して

④ 生き別れて ⑤ 離縁されて

イ「頼みがたき」 ① 信頼がおけない ② 頼りがいが無い ③ 依頼しやすい

④ 頼る必要がない ⑤ 頼ってはならない

ウ「うちまもり」 ① かく身を守って ② すぐさま捕縛して ③ じつと見つめて

④ ふと笑顔になって ⑤ しつかりと鍵をかけて

エ「かひがひしき」 ① 親身になってくれる ② しつかりして頼もしい ③ 気配りができる

④ 華やかで美しい ⑤ 弱々しく頼りない

問2 — 線い～えの意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、い **40** ろ **41** は **42** に **43**。

い「耐へてやはあるべき」

① 耐えてまで生きるべきではない

② 耐える必要があるろうか

③ 耐えて生きることができない

④ 耐えきれることばかりだ

⑤ 耐えられないことはない

ろ 「しほしほとしたる気色にて」

- ① 切羽詰まった様子で
- ② しょんぼりとした様子で
- ③ しとやかな様子で
- ④ ぐったりとした様子で
- ⑤ いらいらした様子で

は 「おはしまさむずらめ」

- ① いらっしやるつもりでしょう
- ② いらっしやらないでしょう
- ③ いらっしやることができない
- ④ いらっしやるそうです
- ⑤ いらっしやるべきではありません

に 「この世ならぬ御契」

- ① この世の者とも思えない生命力
- ② 前世の行いによる善報
- ③ 現世では果たせない約束
- ④ 前世から結ばれた因縁
- ⑤ 来世までも約束された幸運

問3 — 線A「人をも見知らざらむ山里人の草の庵もがな」とあるが、その解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は、44。

- ① 誰もその存在を知らないような山里人の住処があればよかったのに。
- ② 都人のことを誰も知らないような山里人の住処があつてほしい。
- ③ 他人のことに全く関心を持たないような山里人の住処がないものか。
- ④ 追っ手が知らないくらい山深いところに山里人の住処を見つけよう。
- ⑤ 都人を見たことがないという山里人の住処を探さなければならぬ。

問4 — 線B「思ひ思はぬ由をすれども、涙は袖に余りにけり」とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は、45。

- ① 夫の義朝に冷たい態度を取られて家出をした上に道に迷ってしまい、あまり悲壮な顔をしては一夜の宿を断られると思つて気丈に振る舞っていたが、暖かいところで寝られるという安心感から涙が溢れたということ。
- ② 武士の妻たるもの、子供を連れて雪の中を逃げ歩くことなど何ともないと考えており、家の主人の女に憐れまれたくなかつたので気丈に振る舞っていたが、心細さが勝つて涙が溢れたということ。
- ③ 夫の義朝に冷たい態度を取られたため子供を連れて家出をし、夫にはもう未練がないように振る舞っていたが、本心ではまだ夫のことを忘れられないので、涙が溢れたということ。
- ④ 自分たちが義朝の家族であるということを悟られないために、偽りの理由を述べて気丈に振る舞っていたが、行く先の心細さや不安から涙が溢れたということ。
- ⑤ 夫の義朝と死に別れて辛いものの、まだ幼い子供たちを不安にさせないでおこうと気丈に振る舞っていたが、家の主人の女の幸せそうな顔を見て、自分の身の上と比べて涙が溢れたということ。

問5 — 線C「いかでかながらへさせたまふべき」について

(1) この文に含まれる文法的要素を、次の①～⑦のうちから、三つ選びなさい。解答番号は

46

47

48

。

① 終助詞

② 上二段活用動詞

③ 可能の助動詞

④ 尊敬の助動詞

⑤ 下二段活用動詞

⑥ 使役の助動詞

⑦ 格助詞

(2) 解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから、一つ選びなさい。解答番号は、

49

。

① どうして生きながらえなさることができましようか、できようもありません。

② どうして子供たちを育て続けることができましようか、できようもありません。

③ どうして私がある様を生きながらえさせることができましようか、できようもありません。

④ 何が何でも、あなた様は生きながらえなさるべきです。

⑤ 何が何でも、私がある様を生きながらえさせて差し上げましよう。

問6 ～～線 a～e の助動詞の活用形を、次の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、 a

50

b

51

c

52

d

53

e

54

。

① 未然形

② 連用形

③ 終止形

④ 連体形

⑤ 已然形

⑥ 命令形

問7

本文の内容に合致するものを、次の①～⑥のうちから、二つ選びなさい。解答番号は、

55

56

- ① 常葉は、行方不明になっている夫を探すため、幼い子ども三人を連れて旅をしている。
- ② 日が暮れてしまったので、どうにかして泊めてくれる場所はないかと街中を尋ね歩いた。
- ③ 一夜の宿を乞うため、ある家の戸を叩いたが、中から出てきた年配の女性は、常葉のことを怪しんだ。
- ④ 常葉は、主人が女性だったことに安心し、身の上を正直にすべて話した。
- ⑤ 主人の女性は、たとえ自分に危害が及んでも、常葉を追い出したりしないと約束した。
- ⑥ 主人の女性が用意してくれた食事を親子四人で食べ、ようやく安心することができた。

問8

『平治物語』と同じジャンルの物語を、次の①～⑥のうちから、一つ選びなさい。解答番号は、

57

- ① 大和物語
- ② 平中物語
- ③ 太平記
- ④ 小石記
- ⑤ 雨月物語
- ⑥ 海道記